



令和8年度 九州工業大学入学式

日 時 : 令和8年4月7日(火)

午前の部 10時00分～(工学部)

午後の部 13時00分～(情報工学部・工学府・情報工学府・生命体工学研究科)

会 場 : 九州工業大学 戸畑キャンパス 記念講堂

- 式次第 :
1. 開式の辞
 2. 国歌演奏
 3. 列席者紹介
 4. 入学許可
 5. 学長告辞
 6. 新入生代表宣誓
 7. 来賓祝辞
 8. 学歌斉唱
 9. 閉式の辞

学 歌(校歌)

西条八十 作詞
堀内敬三 作曲

一
汪洋^{おうよう}湛^{たん}う玄海^{げんかい}の 深^{ふか}きに優^{まさ}る智^ちを探^{たづ}り

曙^{あけぼの}きよき檣^{しやうざん}山の 崇^{たか}き理^り想^{さう}を仰^{おほ}ぎつゝ

こゝ鎮^{とりで}西^{せい}に砦^{とりで}して 輝^{いくせい}く歴^{れき}史^し幾^{いく}星^{せい}霜^{そう}

燦^{かがや}かし 我^{われ}等^らの歴^{れき}史^し

讃^{たた}えよ あゝ光^は栄^えある母^{はは}校^{がう}

二
科^{おの}学^{せん}の斧^{おの}の一^{せん}閃^{せん}に 自^し然^{ぜん}の神^{しん}秘^ひ打^{うち}ち砕^{くだ}き

救^く世^{せい}の業^{わざ}を現^{あらわ}すべ^きき 希^き願^{がん}は燃^もゆる溶^と鉱^{こう}炉^ろ

巨^こ人^{じん}の愛^{あい}の学^{がく}窓^{まど}に 若^わき学^{がく}徒^との意^い気^き高^{たか}し

燦^{かがや}かし 我^{われ}等^らの使^し命^{めい}

讃^{たた}えよ あゝ光^は栄^えある母^{はは}校^{がう}

三
友^{とも}は集^{あつ}り散^{さん}ずれど 蒼^{そう}穹^{きゆう}燃^もゆる北^{きた}筑^{ちく}に

築^{つく}く文^{ぶん}化^かの金^{きん}字^じ塔^{たつ} 不^ふ滅^{めつ}の誓^{ちか}い頼^{たの}もしや

い^いでや進^{しん}まん天^{てん}翔^{しやう}ける 鳳^{ほう}龍^{りゆう}の旗^{はた}かざしつゝ

燦^{かがや}かし 我^{われ}等^らの歩^あみ

讃^{たた}えよ あゝ光^は栄^えある母^{はは}校^{がう}

本 学 の 伝 統

九州工業大学は、昭和 24 年法律第 150 号国立学校設置法により昭和 24 年 5 月 31 日、明治工業専門学校を包括して設置されたのであるが、その起源は遠く明治 40 年、私立明治専門学校の設立にはじまる。

私立明治専門学校は明治 40 年、当時は稼いだお金を酒食のみに浪費する石炭成金が多い中で、安川 敬一郎、松本 健次郎の父子は、「国家によって得た利益は国家のために使うべきである」という信念から、わが国工業教育の向上と北九州工業地帯発展のため巨額の私財を投じて設立認可され、明治 42 年 4 月 1 日、4 年制の工業専門学校として開校した。

創立経営を託された理学博士 山川 健次郎氏の高い理想のもとに、「本校は単なる技術を授くるの場所に非ずして、人間形成の道場であらねばならぬ」とされ、すなわち「技術に堪能なる士君子」を養成するという指導精神がここに確立したのである。

その後、官立明治専門学校、明治工業専門学校を経て、現在に至ったのであるが、創立の精神は脈々として継承され今日に及んでいる。

かくして私立明治専門学校創立以来、今日までに多数の卒業生を実社会に送り出している。これらの人材は、全国各地においてわが国工業の発展に寄与し、伝統にはぐくまれたその着実な精神は産業界に高く評価されているところである。



安川 敬一郎氏



山川 健次郎氏

治 革

1907 (明治 40) 年	私立明治専門学校設立認可
1909 (明治 42) 年	開校
1921 (大正 10) 年	官立移管
1944 (昭和 19) 年	明治工業専門学校(3 年制)に改称
1949 (昭和 24) 年	明治工業専門学校を包括、九州工業大学設置
1959 (昭和 34) 年	工学部第二部(夜間 5 年制)設置
1961 (昭和 36) 年	九州工業大学短期大学部廃止
1965 (昭和 40) 年	工学専攻科廃止、大学院工学研究科(修士課程)設置
1986 (昭和 61) 年	情報工学部設置
1988 (昭和 63) 年	大学院工学研究科(博士課程)設置
1991 (平成 3) 年	大学院情報工学研究科(修士課程)設置
1993 (平成 5) 年	大学院情報工学研究科(博士課程)設置
2000 (平成 12) 年	大学院生命体工学研究科(独立研究科／博士課程)設置
2004 (平成 16) 年	国立大学法人九州工業大学設置
2006 (平成 18) 年	学生募集停止 工学部夜間主コース
2008 (平成 20) 年	大学院改組 工学研究院・工学府(旧工学研究科)、情報工学研究院・情報工学府(旧情報工学研究科)
2009 (平成 21) 年	創立 100 周年(5 月 28 日)
2018 (平成 30) 年	工学部・情報工学部改組(学科の再編)
2019 (平成 31) 年	創立 110 周年、大学院工学府改組(専攻の再編)
2022 (令和 4) 年	大学院情報工学府改組(専攻の再編)
2026 (令和 8) 年	工学部・情報工学部改組(学科の再編)、大学院生命体工学研究科(専攻の再編)

校 章



校 章



校 旗

■校章は校旗をもとに作成されました

校旗はひろく職員、学生、卒業生の間から図案を募集し、大正13年機械科卒業生中山武夫氏の作品が選定されました。校旗は鳳龍の旗と称され、その意義は明治専門学校の精神を具体化させるものです。校旗制定記念絵葉書によると、

「地彩の紅、黝（重いネズミ色を現す）は、鋼鉄及び鑄鉄の堅実に擬え、又工業の象徴たり。中央の形体は、龍に似て龍に非ず、鳳に似て鳳に非ず、正に之を超越せる霊体なり。眼より耳を通じて拡がる翼は、卓越せる聰明と無量の知識とを現はし、巨口に珠を含むは、光明円満の徳を以て、高く世に呼号せんとするものにして、本校の活動を意味す。」

とされています。

シンボルマーク



2009年創立100周年の節目に、学内公募によりシンボルマークを制定しました。



これからの未来、これからの100年
「動作・活動」= Action



今までの歴史、今までの100年
「価値・値打ち・評価」= Value



未来と歴史を1本にボルトのモチーフでつなぎとめて、
全体として1本の太い棒にしています。貴かれた大学
方針を表しています。



学生の飛躍感や、社会・世界へ飛び出していく元気のよ
いイメージ。上記と組み合わせて、九州工業大学の頭文
字「K」の形になります。



A(ction) V(alue) K(yutech)の頭文字をユニットにしフレッシュで斬新なイメージのカラー使いで未来へ
羽ばたいていく学生やこれからのリードしていく大学を表現しました。

タ グ ラ イ ン

未来を思考する「モノづくり」と「ひとづくり」

タグラインとは、『九州工業大学として、常に変わらずステークホルダーに提供するコアとなる価値を言葉にしたもの』で、九州工業大学の社会に対する約束を言葉で表現したものです。

「技術に堪能なる士君子」の養成。大学のDNAとして受け継がれる安川、山川両先生のメッセージである建学の理念を現代の言葉として紐解き、世の中に約束する九州工業大学のタグラインとしました。